

目次



平安京の面影が彷彿とする平安神宮の社殿



千年の歴史を見守り続けてきた東寺の五重塔



金色に輝く、鏡湖池に浮かぶ金閣



受験の必勝祈願として有名な北野天満宮

京都

京都の歴史…4
京都全図…6

洛中

東寺（教王護国寺）	8	京都御苑【京都御所】	17
西本願寺	13	京都御所・離宮等参観申込要領概要	18
京都タワー	14		
東本願寺	15	下鴨神社（賀茂御祖神社）	19
壬生寺【新選組壬生屯所旧跡（八木家邸）】	16	晴明神社	19
京都府京都文化博物館	17	北野天満宮	20
		二条城	23

洛東

東福寺	25	京都国立近代美術館	34
三十三間堂（蓮華王院）	27	京都市美術館	34
京都国立博物館	28	平安神宮	35
清水寺	29	南禅寺	36
地主神社	30	永観堂（禅林寺）	37
高台寺	31	哲学の道	38
八坂神社	32	真如堂（真正極楽寺）	38
知恩院	33	銀閣寺（慈照寺）	39

洛北

鞍馬寺	41	上賀茂神社（賀茂別雷神社）	44
貴船神社	42	大徳寺	45
三千院	43	延暦寺	47

洛西

金閣寺（鹿苑寺）	48	天龍寺	55
龍安寺	49	大覚寺	56
仁和寺	50	神護寺	57
広隆寺	52	高山寺	58

洛南

伏見稲荷大社	59	平等院	62
醍醐寺	60	宇治上神社	63

奈良

奈良の歴史…64
奈良公園周辺図、法隆寺周辺図…66

奈良公園	68	平城宮跡・奈良文化財研究所平城宮跡資料館	77
奈良国立博物館	69	唐招提寺	78
興福寺	70	薬師寺	81
東大寺	73	法隆寺	83
春日大社	76		
新薬師寺	77		

大阪

大阪の歴史…90
大阪中心部図…92

道頓堀・戎橋	94	海遊館	99
水かけ不動（法善寺）	95	なにわの海の時空館	100
アメリカ村	96	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™	101
大阪城天守閣	97		
通天閣	98		

神戸

神戸の歴史…104
三宮・元町界限図、灘界限図…106

生田神社	108	イタリア館（プラトン装飾美術館）	114
風見鶏の館	109	ラインの館	115
萌黄の館	109	神戸北野美術館	115
香りの家 オランダ館	110	シュウエケ邸	116
ウィーン・オーストリアの家	110	北野工房のまち	116
デンマーク館	110	異人館めぐり〈お得な割引券〉	117
英国館	111	シティー・ループ	117
旧パナマ領事館	111	南京町	118
仏蘭西館（洋館長屋）	112	神戸ポートタワー	119
ベンの家	112	神戸港震災メモリアルパーク	119
うるこの家・うるこ美術館	113	神戸モザイク	120
北野外国人倶楽部	113	人と防災未来センター	121
旧中国領事館	114		
山手八番館	114		

社寺文化施設一覧【京都・奈良・大阪・神戸】…122
京都・奈良・大阪・神戸の旅～問い合わせ先～…127



野生の鹿の集合場所になっている奈良公園



秀吉の天下統一の様子が伺える大阪城



「走る異人館」…レトロ調なシティループ



活気あふれるチャイナタウン、南京町

洛中

中世、豊臣秀吉が市街の周りに御土居を築造し、その内側を洛中、外側を洛外とした。現在でも洛中という言葉は残っているが、その範囲はかなりあいまいである。ここでは、南は東寺のある九条通、北は今出川通周辺とし、東は鴨川、西は西大路通までの範囲を洛中と呼んでいる。

東寺（教王護国寺）

世界文化遺産

南区九条町1
☎ 075-691-3325
市バス「東寺東門前」下車、すぐ
近鉄電車京東線「東寺」駅下車、徒歩9分

大阪方面から京都市内へ入っていくとき、あるいは市内から南の方へ出ていくとき、いつもわたしたちの眼をとらえるのが、東寺の大きな五重塔の姿である。江戸時代初期に再建されたものだが、55mの高さは日本の木造古塔中最も高く、堂々としていて、京都の玄関口を象徴するにふさわしい建物である。

東寺は、京都市街条坊の南縁に位置して、空間的に玄関であるばかりでなく、歴史の上からも京都の玄関口である。

延暦13年（794）、平安京への遷都が行われ、ただちに東西両寺が造営された。（現在でも、東寺の西方に西寺の遺跡が僅かだけがある。）

はじめは、国外からの賓客をもてなす迎賓館のような役目をもった建物だったそうだが、唐から帰国し、日本に真言密教を広めはじめていた空海（弘法大師）に委ねられたのは、弘仁14年（823）のことだった。

その当時、まだ東寺は造営中で、金堂が5年前に落成していた程度だったが、空海は、ここを真言密教の根本道場とするべく、寺名を「教王護国寺」（正確には「金光明



空海（弘法大師）

四天王教王護国寺秘密伝法院」と定め、その造営に力を注いだのだった。

天平時代の栄華は、奈良の都の東大寺における大仏開眼を境に傾きはじめる、疲弊した国力を建て直すために、平安京遷都が敢行された。質実であることは、平安時代初期のモットーであったし、東寺の造営がそんなにも時間がかかったのも、天平時代の財力との相異が原因になっている点も大きい。事実、空海は、この東寺を嵯峨天皇から賜り、ここに真言密教の根本道場を築きはじめたが、伽藍の完成は、空海が亡くなった後まで待たねばならなかったという。

天平時代まで盛んであった仏教は顕教と呼ばれる種類のもので、空海が唐に留学して学んできた真言密教は、当時は新興宗教といってもよかった。しかし、その信仰は力強く、ちょうど新しい時代のありかたを求めていたこの時代の人々の心を捉えたのだった。だから教王護国寺は、京都の歴史の始まりとともに、今日にまで伝わってきた数少ない平安京の遺構の一つといえよう。建物はこの千年余りの長い歲月の中で、しばしば荒廃し、また復興してきた。現在の伽藍は、室町時代から江戸時代にかけて再建されたものである。

伽藍の配置も、最近の発掘によって、初期の遺構が確認され、現在とはだいぶ異同があることが判ってきた。しかしその初期の伽藍配置にしても、高野山や比叡山の密教寺院の配置と比べれば、この教王護国寺の伽藍配置には、前時代の、つまり顕教寺院の匂いが強く残っているのを感じる。それは、別の言い方をすれば、教



王護国寺を真言密教という当時の新興宗教を広める根拠地にしようとした空海は、それまでに人々の間に行き渡っていた古い信仰＝顕教の形を十分利用して、新しい信仰をその上に開花させようとしたのだともいえよう。

お寺の正門は、ふつう、南方へ向かって開かれている。すなわち南大門である。東寺の南大門は、九条通に向かって開かれている。これは、明治28年（1895）に三十三間堂の西門を移建したものだが、現在東寺を見学するには、この南門をくぐって入るより、東側に開かれている慶賀門（東門）から入るほうが便利である。

慶賀門から入って左手すぐに、校倉造りの宝蔵（平安後期）が見える。食堂（昭和初期再建）の左側に拝観受付の事務所が建っていて、規定の拝観区域には、五重塔（国宝）、講堂、金堂（国宝）が含まれているだけである。このうち、五重塔の内部は通常非公開だが、まれに初層拝観の特別公開が行われている。

東寺には、京都初期、つまり、平安時代初期（美術史の方では弘仁・貞観時代といわれてきた）から近世へかけての、重要な美術品が無数にある。とくに、空海在世中からの遺品も数多い。それらは、年に2度開かれる宝物館に少しずつ展示される（春季・秋季とも2ヶ月間程）。講堂と金堂にはそれぞれに安置された仏像が納められている。

講堂は、延徳3年（1491）再建といわれているから、室町末期の建物である。入母屋造、単層、本瓦葺の建物で、南面する須弥壇に、じつに数多くの仏像が安置され、密教世界を展開している。

それは、本尊大日如来を中心に総計21体の諸尊によって構成されている。その構成自体が一つの密教思想の表現なのである。まず、本尊が大日如来であるということが、きわめて大きな密教の特色だ。それまで顕教では、悟りをひらいた仏陀としての釈迦を本尊としており、釈



兜跋毘沙門天像 (東寺宝物館)

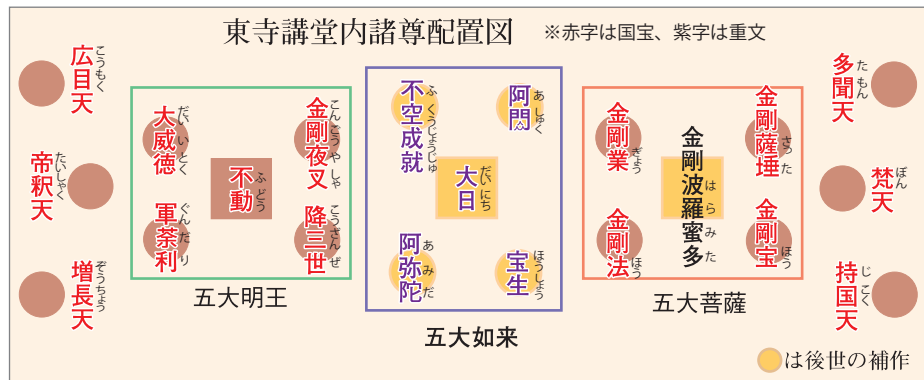
迦如来や薬師如来、阿弥陀如来などは、釈迦＝仏陀の具現された姿であった。密教では、本尊は常に大日如来であり、これは、仏の中の仏として存在し、釈迦ですら、大日如来へ至る過程の一つである仏のありかたにすぎない。大日如来は、いわば宇宙の根源にして最高の存在者なのである。

この大日如来像(桃山時代)を中心に、講堂には、一つの曼荼羅世界が彫像によって形成されている。東西に横長く拡がった内陣須弥壇上

の仏像は、四つのグループに分けられる。中央は、大日如来を中心とした五大如来からなる。西側に、不動明王を中心とした五大明王(国宝)、そして、東側に、金剛波羅蜜多菩薩を中心とした五大菩薩(国宝)。さらに、この大きな須弥壇全体を護る四天王と、梵天、帝釈天があり、いずれも国宝。この6体は三つのグループを含む須弥壇全体を護っている。

五大明王、四天王、帝釈天は木造、とところどころに乾漆を補う。五大菩薩、梵天は乾漆像で、技法の点からも天平時代の名残を見ることができる。これらの五大如来、五大明王、五大菩薩の組合せの基本形は三尊形式にある。梵天と帝釈天の安置の仕方も、三尊形式の源である顕教的な配置によっており、ここにも、旧教としての顕教を土台に新しい信仰＝密教の基礎を展開しようとする空海の意図がみとれる。

五大如来と金剛波羅蜜多菩薩は桃山期に作り改められたものだが、残りの15体は東寺創建時代のもので、寺伝では空海の作という。一木造で漆箔や彩色が施されていた。この講堂は、その意味で、貞観彫刻の宝庫である。とくに五大明王像には、密教彫刻の粋が刻まれているといえよう。密教にあって明王像は、他のどの仏教宗派におけるよりも重要な役割を果たすから



である。明王たちに表現される情念的なデモニーニッシュな力——それは人間を悟りへと導く上で不可欠なものである。人間の問題を、知性の狭い領域に押し込んで片付けようとせず、もっと不合理な情念の問題を巻き込んで展開しているようにする力が、これらの像にほとぼしっている。

菩薩たちは、明王たちよりもっと静かに思索し、知のまなざしをもって私たちに向かっている。明王たちの激しい情念と、菩薩たちの静かな思索のまなざし、この二つの相を、如来の徳が支えているという構図に、曼荼羅の世界が表現されているのである。

さて、金堂に入ると、講堂とは全くちがった光景が展開されている。講堂の中にあつた激しさとはよめくような仏像たち自身が作りだす存在感のようなものはない。広い室内には静かに、背の高い薬師如来と日光・月光の三尊が佇むばかりである。薬師如来の台座下に、十二神将がめぐらされているが、これは、創建当時とは異なる。光背の下方におかれていた。本尊の光背には7体の仏が配されている。この厳かな薬師三尊像は、創建当時、平安京の入口に位置して、京へ入りこもうとする悪霊をここで祈り防いでいたのだろう。現在の薬師三尊は桃山時代の作で、金堂も慶長11年(1606)、豊臣秀頼によって再建された。重層、入母屋造、本瓦葺の堂々たる建物である。

東寺は、平安末期源氏と平家の争いによって荒らされたのをきっかけに荒廃しだした。鎌倉時代に入って復旧し、応仁の乱の時には京の町すべてが焼き尽くされたが、聖地・東寺は難を逃れた。それは、空海——というより、弘法大師——の威徳が人々の心に浸み入っていたこと

がなにより大きな原因であろう。顕教における聖徳太子と、密教における弘法大師の2人の姿は、狭い意味での仏教の教えや理論を越えて、日本人の心に住みついているのである。

しかし、文明18年(1486)に起つた土一揆は、ついに、この東寺の伝統ある伽藍の多くを灰にしてしまった。その後復興されたものが、現在の東寺伽藍を形成していることは先にも触れた通りである。そして、この長い変遷の歴史を通して守られてきた寺宝類は、まだ完全に整理しきれていないと聞く。現在は宝物館にしまわれている。

寺宝の中でも、まずなによりもとり上げたいのは、空海が唐より請来したという両界曼荼羅(国宝)である。両界というのは、「金剛界」と「胎藏界」のことをさす。曼荼羅は、密教道場の両脇につるされて、修法が行われる際の重要な荘厳の一つである。そこには、大日如来



五重塔



奈良公園にある最も広い広場の春日野園地

奈良公園

興福寺・東大寺・春日大社などを含む奈良市東部地域
 奈交バス「県庁前」「東大寺大仏殿」「大仏殿春日大社前」など下車、すぐ

奈良坂は、京都から奈良への入口である。昔から、山城と大和をつないでいた道である。この奈良坂を下っていくと、東大寺の大仏殿の大きな屋根が浮き上ってき、そして、興福寺の五重塔がそれに重なるように見えてくる。今では、この二つの荘厳な古代建築の姿に、奈良県庁のシンボルのような近代的建物が重なり合ってみえるが、そこは、もう奈良公園なのである。

JRの奈良駅を降りれば、三條通を東へ。また、近鉄に乗って行けば、奈良駅の地下のホームから地上に出ると、そこは広々とした登大路で、若草山を背景にした奈良公園の目前に立っていることになる。

公園内には、東大寺や興福寺、春日大社、奈良国立博物館などがある。この公園は、明治時代に作られたものだが、特別に囲いや塀で仕



奈良公園にいる野生の鹿

切られているわけでもなく、ちょっと、ふつうの公園というイメージとは違うのだ。人なつこい鹿が芝生で遊び、人家や旅館の立ち並ぶ道がおのずと古代の大加藍へつながる。なにげなく歩いていると、ふと目の前に堂塔や大門が現われ、またそれが木の間に隠れる。いうなれば、奈良公園は、古代の歴史の厚みをもった自然公園なのである。

もともと、そこは、平城京の坊城の外にあって、奈良時代には「外京」といわれていた。平城京は、1300年の間にすっかり姿を変えてしまったが、外京はいまも、奈良公園となって、古代の姿をそこここに偲ばせてくれる。

奈良国立博物館

奈良市登大路町 50

☎ 0742-22-7771

奈交バス「氷室神社・国立博物館前」下車、すぐ
 近鉄電車奈良線「近鉄奈良駅」下車、東へ徒歩 15分

東京・京都・九州と並び、4館しかない国立博物館の一つ。天平文化発祥の地・奈良にふさわしい仏教美術の殿堂として知られ、「正倉院展」などの特別展は全国的にも有名。木造薬師如来坐像などの仏像群をはじめ、地獄草紙、紫紙金字金光明最勝王経、刺繍釈迦説法図など、館蔵のコレクションには彫刻・絵画・工芸・書とも国宝・重文を含む名品が多い。

平成10年(1998)春には、全国初の免震陳列ケースの採用など耐震面にも配慮した東新館がオープン。従来の本館、西新館に加えて展示スペースも大きく拡大し、混雑の緩和、常設展示の充実、無料公開スペースの設置など一層親しみやすくなった。明治28年(1895)に



新館

木造薬師如来坐像(奈良国立博物館蔵)



開館した重厚な石造の本館(旧帝国博物館)は国の重文に指定されており、展示室内の装飾も見所の一つである。

興福寺

世界文化遺産

奈良市登大路町 48

☎ 0742-22-5370

近鉄電車奈良線「近鉄奈良」駅下車、南東へ徒歩 5 分

登大路の県庁前を南へ、芝生の間をぬけて行けば、そこは興福寺の寺域だ。

この寺は、まるで現在の平城京の運命を物語るように、数奇な波乱にみちた歴史をたどってきた。はじめは、藤原氏の氏寺として山城に建てられた山階寺が、飛鳥に移され、平城遷都とともに現在の地へ建てられたという。そして、藤原氏と皇室の関係が深まるにつれて、興福寺の力も強くなり、南都七大寺の一つとして君臨した。

都が京都へ移されてからも、京都の延暦寺と対抗する力を持ち、「南都北嶺」という言葉さえ生まれたが、平安時代末期、平家が南都焼討ちを行い、興福寺の堂塔を焼払ったのが、最

初の大きな波乱だった。

江戸時代には大火に見舞われたこともあったが、最も大きな打撃は、明治元年（1868）の廃仏毀釈運動だった。

それまでの日本は、何百年もの長い間、神社と寺院は同居して、神仏混淆の信仰が受け入れられていたが、明治維新とともに神仏分離令が布告され、日本中に仏教排斥の動きが起きた。仏典や経典は捨てられ燃やされ、仏像や宝具が壊された。興福寺の五重塔も売りに出され、5 円で買い受けた者がいた。ところが買ったものの、塔を壊すのに大変な手間や金がかかるので、買い主が困って放っておくうちに、仏教排斥運動の嵐もおさまって、五重塔は解体されずにすんだというのである。

そんな運命を象徴するように、現在の興福寺の境内も、松林の中に寂しげである。全盛期から比べれば 10 分の 1 の広さもなく、雄大だったと伝えられる南大門も、土壇と敷石を残すば



東金堂と五重塔

仏頭（興福寺国宝館蔵）



亀 3 年（726）に造立したものだ。創建当初は、床に薬師如来の浄瑠璃光世界を表す緑色のタイルが敷かれていたそうだが、その後、何度も被災などに合い、再建を繰り返した。現在の建物は、室町時代の応永 22 年（1415）に建てられたものである。

南都焼討ち以前の生き残った仏像・宝物などは、**国宝館**に展示されている。館内を歩いて行くと、白鳳から天平へかけての美術を語るときに、欠かすことのできないものが多い。

銅で作られた大きな仏頭——旧東金堂本尊——は、昭和 12 年（1937）の東金堂修理の時に、本尊台座の下から発見された。7 世紀に作られたもので、代表的な白鳳仏である。もとは飛鳥の山田寺にあり、鎌倉時代の混乱の時期に興福寺へ移され、そして南都焼討ち時に、胴体は兵火に焼かれてしまった。左側に焼けただけだが当時の様子を伝える。いまはこうして、長い年月秘されていた頭部だけが蘇った。八部衆立像といえは馴染みないようだが、

かりだ。南大門跡へは三条通から入る。

南大門跡の奥にある**中金堂**は、江戸後期の文政 2 年（1819）のものだが、中に納められていた仏像は、優れた鎌倉仏たちである。現在は新金堂再建のため、平成 12 年（2010）までこの釈迦三尊や四天王は仮金堂に納められている。ちなみに、興福寺の建物には鎌倉時代のものが多いのは、南都焼討ちのあとの再建（南都復興）の遺産である。

中金堂を西へ歩いていくと、草深い中から八角の形をした**北円堂**の姿が見えてくる。承元 2 年（1208）建造で、鎌倉初期の力にあふれた建物である。運慶が作った弥勒仏坐像や世親菩薩立像、四天王が安置されている。

北円堂から南円堂へ回る角に、「新能金春発祥の地」碑が立っている。そこを過ぎるとなんとなく人の気配が多くなる。**南円堂**は西国三十三所の第九番目のお札所である。南円堂の本尊は、不空罽索観音菩薩の坐像で、運慶の父康慶が作ったという鎌倉初期の木彫仏。建物は寛保元年（1741）、江戸時代のもの。

南円堂の右脇には、お地藏さんや観音様が祀られていたりするが、左の方のちょっと低い所には、**三重塔**が立っている。五重塔の雄大な姿に隠れて目立たないが、美しい塔で、やはり鎌倉時代に再建されたもの。

三重塔から振り返ると、高さは 50.8m、京都の東寺の五重塔（55m）に次いで高い**五重塔**が見える。室町時代に再建されたものだが、創建期（天平 2 年・730）の面影をよく再現している。やはり、興福寺のシンボルともいえるべき建物であろう。

五重塔の北側にあるもう一つの金堂は、西向きのお堂で**東金堂**と呼ばれている。聖武天皇が叔母の元正太上天皇の病氣全快を願って、神

道頓堀・戎橋

大阪市中央区道頓堀周辺
地下鉄御堂筋線・千日前線「なんば」駅下車、徒歩5分
近鉄南大阪線「近鉄難波」駅下車、徒歩5分

道頓堀とは、大阪市を流れる木津川と、東横堀川を結ぶ全長約2.5kmの運河のこと。同時に、このあたりの町名でもある。

道頓堀の開削工事は、慶長17年(1612)安井道頓によって始められた。しかし、3年後の大坂夏の陣にて、道頓が戦死。工事は道頓の従弟・道卜に受け継がれ、慶長20年(1615)に完成した。堀は、開削者を称えるため、大坂城主・松平忠明により道頓堀と名付けられたのである。現在、日本橋北詰東に安井道頓・道卜紀功碑が立っている。

その後、道頓堀沿いには江戸幕府から許しをもらった道卜により、芝居小屋や遊所が建てられ、やがて明治時代になると歌舞伎や人形浄瑠璃が行われた戎座(浪花座)、中座、角座、朝

日座、弁天座の浪花五座が構えられた。ここ道頓堀は、諸芸を競う上方芸能の中心地として栄えたのである。

近年では、「食いだおれのまち・大阪」を代表する飲食街として有名である。「大阪名物くいだおれ」の店舗前にある「くいだおれ人形」は、記念撮影の場所としても知られている。

この道頓堀に架かる心齋橋筋の橋が、戎橋である。

個性的で派手な「江崎グリコ」や「かに道楽」の装飾看板の観光名所である。阪神タイガースが優勝した時、ファンたちが川に飛び込んだことでも有名。現在は、架け替え工事中である。

また、戎橋から太左衛門橋の両岸に、「とんぼりリバーウォーク」という名称の遊歩道が整備されている。ドン・キホーテの楕円形観覧車「えびすタワー」が川面に面して設置され、川側からの出入りができるようになっており、地元商店会により、イベントや行事などが開催されている。



くいだおれ人形



かにな道楽

水かけ不動(法善寺)

大阪市中央区難波1-2-16
☎06-6211-4152
地下鉄御堂筋線・千日前線「なんば」駅下車、なんばウォークB16出口北へすぐ

法善寺の境内に祀られ、「水かけ不動さん」の愛称で親しまれている不動明王像。柄杓で水を注いで願掛けすることから名付けられた。大勢の人々に水をかけられたことを示すように、その姿は苔だらけ。商売繁盛や恋愛成就で知られている。しかもここでは、一日中線香の煙がただよいため、香りが染み付いている。

寛永14年(1637)の創建の法善寺は、本尊は阿弥陀如来の浄土宗の寺院。ほとんどの堂宇が焼失しているが、水かけ不動と金毘羅堂は残っている。ちなみに、このお寺は千日回向といって、千日ごとに念仏供養を行う寺だったので、その門前が千日前と呼ばれるようになったのである。



水かけ不動



法善寺横丁

法善寺の境内の露店から発展した法善寺横丁は、明治時代から昭和時代の初期にかけて、寄席の紅梅亭と金沢亭(その後、ともに吉本興業に吸収される)の全盛もあって、落語を楽しむ人々で賑っていた。しかし、太平洋戦争の空襲で寺ともども焼失。戦後に、再び盛り場として蘇ったのである。

昭和15年(1940)7月に発表された織田作之助の小説『夫婦善哉』の舞台としても有名で、作之助の文学碑も立っている。

法善寺の前にある「夫婦善哉」の店では、名前にふさわしく、1人前のぜんざいを夫婦で食べられるよう二つの椀に入れて出してくれる。石畳が続く古い路地で、浪花情緒を目と耳と舌で味わってみるのも一興である。



法善寺

アメリカ村

大阪市中央区西心斎橋 1～2
 地下鉄御堂筋線・長堀鶴見緑地線「心斎橋」駅下車、すぐ
 地下鉄四つ橋線「四ツ橋」駅下車、すぐ

アメリカ村は、昭和 50 年（1975）前半から若者の集まる場所として、形ができてきた地域のことをいう。具体的には、北を長堀通り、南を八幡通り、東を御堂筋、西を四つ橋筋に囲まれた一帯をいい、略してアメ村とも呼ばれる。

以前この辺りは炭屋町と呼ばれており、江戸時代に四国で作られた炭が大阪湾から道頓堀をさかのぼり、この場所に集まってきていた。つまり、この町には江戸より炭を求める商人が往来し、発展していったのだ。その後、昭和に入ると百貨店の倉庫や飲食店などの従業員寮が集まる街へと変貌した。

高度成長期になると、倉庫を改装し、古着やジーンズを売る店が徐々に増えて行き、若者が出入りする街になっていく。その後、彼らはアメリカ西海岸で買って来た古着や雑貨、中古レコードなどをここで販売。やがて、アメリカのモノや文化が集まる地域として知られ、アメリカ村と呼ばれるようになったといわれている。



三角公園

アメリカ村のビエロ



アメリカ村のスポットで、**三角公園**ははずせない。ここは、大阪一有名な街区公園といえるであろう。

戦後、道路敷地の一部にできた「御津公園」と称されたこの三角スペースは、70年代からのアメリカ村という若者の街の発展とともに「三角公園」という呼び名で親しまれ、周辺地域の変貌にあわせて、改修され続けている。

この公園は、若手漫才師の登竜門とでも呼ぶべきところであり、辺りを闊歩する若者をお客さんに見立て、彼らに無償で漫才を披露する光景は、今やアメリカ村の名物である。若手コンビはここで客前に立つ練習を繰り返す。いつしか立ち止まって見てくれる客が増え、ファンが生まれていくのである。

ここは、ファッションや雑貨、レストランなど個性的な店舗が集まっているほか、週末には20万人程の人が集まり、パフォーマンスやフリーマーケットも開かれている。

大阪城天守閣

大阪市中央区大阪城 1-1
 ☎ 06-6941-3044
 地下鉄谷町線「天満橋」・「谷町四丁目」駅下車、3番・1-B 番出口徒歩 15 分
 地下鉄中央線「森ノ宮」駅、地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」・「森ノ宮」駅下車、1番・3-B 番出口徒歩 15 分
 JR 大阪環状線「森ノ宮」・「大阪城公園」駅、JR 東西線「大阪城北詰」駅下車、徒歩 15 分
 京阪電車本線「天満橋」駅下車、徒歩 15 分

石山本願寺の跡に、天正 11 年（1583）豊臣秀吉が築城を開始した大坂城。

慶長 20 年（1615）大坂夏の陣の時に廃墟同然となった大坂城は、徳川幕府の 2 代将軍徳川秀忠により再築された。その後、落雷で天守閣を焼失。現在の天守閣は 3 代目で、昭和 6 年（1931）の復興と平成 9 年（1997）の改修により、当時の美しい姿で蘇っている。

内部は歴史資料館になっており、絢爛豪華な大阪城の歴史資料や、ジオラマ、ビデオなどで様々な角度から大阪城を楽しむことができる。その中でも、天下統一をした秀吉の生涯や、映像とミニチュア模型を使った大坂夏の陣の戦い



大阪城内部



大阪城天守閣

豊臣秀吉



は、見応えがある。

大阪城の最上階は、地上から 50m の展望台になっており、周辺の大阪城公園だけでなく、大阪の街を一望できて爽快だ。

他にも、圧倒される程の外観の大きさや、巨石を組み込んだ壮大な石垣や水濠の調和した美しさにも注目してもらいたい。

大阪城天守閣の北・西・南と残る外堀の内側には、大手門に続いて多聞櫓・千貫櫓があり、西の丸庭園が広がっている。南の堀際には一番櫓・六番櫓が盛時の面影をとどめ、その東側には、唐破風の上に千鳥破風を重ねた拜殿と本殿がある**豊国神社**が見える。

豊国神社は、明治 12 年（1879）11 月に中之島に創建され、現在の地へは、明治 36 年（1903）に遷された。祭神として、秀吉・秀頼親子と秀吉の異父弟秀長を祀っている。

大阪城天守閣の西側にある**西の丸庭園**は、昭和 40 年（1965）に開園した有料庭園である。6.45ha の広大な敷地の約半分 33000m² は良く整備された芝生庭園で、大阪を代表するお花見の名所となっている。

いくた じんじや
生田神社

神戸市中央区山手通 1-2-1

☎ 078-321-3851

各線「三宮（三ノ宮）」駅下車、徒歩 6 分

三宮駅の北西、繁華街にある東急ハンズに沿って歩くと、生田神社の一の鳥居が見えてくる。

生田神社の祭神は、^{わかひるめのみこと}稚日女尊^{わか}である。「^{みずみず}稚く^{あまてらすおみかみ}瑞々しい日の女神^{ひろたじん}」を意味し、天照大神の幼名ともいわれる。『日本書紀』には、神功皇后^{じんこうこうごう}后^{ごう}摂政元年（201）に神功皇后の三韓外征の帰途、生田神社と神戸の長田神社、西宮の廣田神社を同時に建てられたと伝えられている。

社殿は、昭和 13 年（1938）の神戸大水害、昭和 20 年（1945）の神戸大空襲、平成 7 年（1995）の阪神・淡路大震災などで何度も被害に遭いつつも、そのつど復興されてきたことから、「蘇る神」としての崇敬も受けている。

境内には、鳥居の向こうに朱色の楼門、拝殿、本殿が続いて建てられており、それらの周囲



楼門

には、蛭子社および稲荷社、弁天社などがある。また、「^{ようきよくいくたおつもり}謡曲生田敦盛」の碑や、地元飲食店や食品関連企業によって作られた包丁塚、震災復興祈念碑、楠の神木を見ることができる。

本殿の背後にある「生田の森」は、平安時代のころから歌枕に詠まれていた名所であり、源平合戦の古戦場としても有名である。境内には、源平合戦に由来する史跡などが残されている。

生田神社ではその昔、社の周囲に松の木が植えられていたが、これらの松がまったく洪水を防ぐ役割を果たさなかったという伝承から、現在境内には 1 本の松の木もない。そのため、能舞台の鏡板にも松ではなく杉の絵が描かれ、元旦には門松は立てず杉飾りを立てるといった変わった風習が残っている。

この神社は、地元市民球団オリックスブルーウェーブやヴィッセル神戸等、野球・サッカーチームの必勝祈願にて参る場所としても知られている。地元では「生田さん」として親しまれており、初詣の時期ともなると毎年約 150 万人の参拝客が訪れるという。

かざみどり やかた
風見鶏の館

神戸市中央区北野町 3-13-3

☎ 078-242-3223

地下鉄西神・山手線「新神戸」駅下車、徒歩 10 分

各線「三宮（三ノ宮）」駅下車、徒歩 15 分

かつて神戸に住んでいたドイツ人貿易商ゴッドフリード・トーマスが個人住宅として建てたもので、旧トーマス邸とも呼ばれている。明治 42 年（1909）建造で、れんがと石造りの 3 階建て。屋根にのせられた風見鶏は、異人館が多く建つ北野の街のシンボリック的存在となっている。

この北野に現存する異人館の中で、れんがの外壁は意外にもここだけ。このドイツ伝統様式を持つ外観とアール・ヌーボー様式の調度品が見物である。

風見鶏とは、その名の通り風向きを知る役目を持っているが、雄鶏は警戒心が強いことから魔除けの意味や、キリスト教の教勢を発展させる効果があるともいわれている。

昭和 52 年（1977）10 月から始まった NHK 連続テレビ小説『風見鶏』で全国的に知名度が上がった。この建物の文化財としての価値が再評価され、翌年の 1 月には、国の重文に指定されている。

もえぎ やかた
萌黄の館

神戸中央区北野町 3-10-11

☎ 078-222-3310

地下鉄西神・山手線「新神戸」駅下車、徒歩 10 分

各線「三宮（三ノ宮）」駅下車、徒歩 15 分

風見鶏の館の南西に隣接する、楠の大樹に囲まれた萌黄の館は、明治 36 年（1903）に建築されたアメリカ総領事ハンター・シャープの



旧邸宅。やがて、昭和 19 年（1944）に元神戸電鉄の社長、小林秀雄の住宅になり、その後、昭和 55 年（1980）に国の重文に指定された。

かつては、その純白の外観から「白い異人館」と呼ばれていたが、昭和 62 年（1987）の解体修理の際、外壁を建築当初の淡いグリーンに戻したことから、萌黄の館という名前が付けられたという。

木造 2 階建て、下見板張りのこの異人館は、外観のデザインが大変きめ細かく整っている。優雅な雰囲気を感じさせる室内と一緒に、格調の高さを見せている。

平成 7 年（1995）の阪神・淡路大震災では、3 本の煙突がすべて落下し、壁にも大きな破損を受けた。今も一部をそのままに残し、震災の記録としている。

本書は、小社のロングセラーとして多くの読者からご好評をいただいていた『京都散策案内』『奈良大和路散策案内』（木下長宏・著）等をベースに改編し、大阪・神戸の主要な観光スポットも掲載し、新レイアウトで再編集したものです。編集にあたっては、旧版の特徴であった美術・歴史案内の視点からの解説を丁寧に盛り込むとともに、よりビジュアルで読みやすいガイドを目指しました。

悠久の歴史と文化を愛でる京都・奈良、商人として町が発展した大阪、震災を乗り越え、より魅力的になった異国情緒あふれる都市・神戸の散策のお供にご利用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本書編集にあたり資料・写真提供、及び掲載許可・取材等にご協力いただきました多くの皆様方に、この場を借りて心からの謝意を表します。

本書掲載の地図は、国土地理院発行の地形図をもとに作成いたしました。
本書の記事、データ等の無断転載・複製をお断りします。©ユニプラン 2007

散策&観賞 KANSAI ～四都巡り～ 定価 800 円（本体 762 円+税 5%）

2007 年 9 月 6 日 第 1 版第 1 刷

編 著 者／木下長宏、早川友恵、ユニプラン編集部

デザイン／岩崎宏

発 行 人／橋本良郎

発 行 所／株式会社ユニプラン

〒 604-8127 京都市中京区堺町通蛸薬師下ル

菊屋町 513 谷堺町ビル 3 階

TEL. (075) 251-0125

FAX. (075) 251-0128

振替口座 01030-3-23387

<http://www.uni-plan.co.jp>

印 刷 所／株式会社 谷印刷所

ISBN978-4-89704-239-8 C2026